

創世記2章7節 「いのちの息」

1A 塵からの形造り

1B 水の入ったちり(=粘土)

1C はかなさ

2C いのちある体

3C 陶器師なる神

2B 疲れと渇き

1C 隠している罪

2C 身代わりの主

2A いのちの息

1B 二つのいのち

2B 神の息

1C 神のことば

2C 聖霊

3A 生きるもの

1B 涸れた骨の二段階のよみがえり

2B 新しい誕生

1C 霊と身体の復活

2C 生きる選択

本文

創世記 2 章を開いてください。午後礼拝で、2 章 4 節から最後までを一節ずつ見ていきます。今朝は、7 節に注目します。主が、人を造られた時、どのように造られたか、書かれている箇所です。「**神である【主】は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。**」

私たちは前回、人が、神のかたちに似せて造られたということが、他の動物と違うということを学びました。神のかたちとは、目に見えない神が、目に見える像をもって造られるということです。そしてここでは、それが、神の息が人に吹き込まれたところで、そのように神のかたちになっている、ということがわかります。

ここの箇所をじっくりと見ていくことによって、私たちが、自分が人として、どのような存在であるのかをはっきりと理解できるのではないかと思います。

1A 塵からの形造り

1B 水の入ったちり(=粘土)

第一に、人は、「**大地のちり**で」造られているということです。

1C はかなさ

後に、この最初の人、アダムが罪を犯したため、主は、「あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」と言われます(3:19)。私たちが、塵にしかすぎないこと、これが後に、主は何度となく語られます。いや、主ご自身だけでなく、神の聖徒たちがそのことを告白していきます。例えば、アブラハムは主に、ロトの家族のことを執り成しする時、「18:27 アブラハムは答えた。「ご覧ください。私はちりや灰にすぎませんが、あえて、わが主に申し上げます。」と言いました。

私たちが、いかに儂いかを示しています。その成り立ち、自分が何者かを忘れてはいけません。かつて映画化された小説に、まさに「あなた何者」という題名のものがあります。就職活動をしている大学生たちの姿を描いています。そこで、自分は一体、何者なのか？が探られます。一人一人、なかなか就職が決まりません。まさにそれは就職の氷河期のことを描いていますから、なおさらのことです。そこで一人、実はツイッター、今の X で、他の仲間をディスっていることを、その一人が既に知っていることを明かします。そこで評論しているのですが、すべて他人事、言っていることは的を射ているのかもしれませんが、では、そう評論しているあなたは、何様なのよ？あなたも、「どうしようもないね」と言っている、独りの一人なんじゃないの？と言います。

そう、私たちは「あなたは何様」と言われたら、ぐうの音も出ない、塵にしか過ぎない者です。はかない存在です。けれども、だからこそ、神は私たちのことを知って、憐れみをかけ、神によって生かしてくださっています。今朝読んだ、詩篇がそのことを教えています。

14 主は私たちの成り立ちを知り 私たちが土のちりにすぎないことを心に留めてくださる。

15 人その一生は草のよう。人は咲く。野の花のように。

16 風がそこを過ぎると それはもはやない。その場所さえもそれを知らない。

17 しかし【主】の恵みは とこしえからとこしえまで 主を恐れる者の上にとあり 主の義はその子らの子たちに及ぶ。

そう、神の恵みによって、私たちは今、自分が自分なのだということです。私たちは、神の一方的な愛と恵みによって、美しく着飾っていただけているのです。

2C いのちある体

今回、改めて聖書通読の学びをしていく中で、一つ、大きな発見がありました。新改訳 2017 は、正確に「**その大地のちり**」と、「その」を入れています。6 節に、どんな大地だったかが書かれていま

す。「ただ、豊かな水が地から湧き上がり、大地の全面を潤していた。」土煙が出てくるような土地ではなく、豊かな水によって潤っていた大地だったのです。ですから、乾燥した土煙ではなく、一歩踏んだら、ぬかるんでしまうような肥沃な土地、あるいは粘土のようなものだったのです。

水というのは、創世記 1 章、まだ光が造られる前にすでにあって、その大水の面には闇がおおっていました。水が膨大にあれば、荒れ狂う大海のように恐ろしいもの、闇の世界を示していますが、適切な水は、むしろ潤いをもたらします。いのちをもたらすものです。モーセが、イスラエルの民を荒野を通して、約束の地のそばまで導いたわけですが、その潤いのある土地がどのように、彼やイスラエルの子らには聞こえたか知れません。まさに、自分を生かすものです。

事実、私たちの身体は土の成分と水分で成り立っています。まず水分を除いた土の成分ですが、炭素、酸素、水素、窒素などが 90% 占めています。土も同じです。その他、マグネシウム、カルシウム、硫黄、リン、ナトリウム、カリウム、塩素などがありますが、それも土と同じです。¹そして、なによりも水分が多いです。体重の 6 割から 7 割が水なんです！私たちの体は水浸しなのです。ですから、豊かな水で潤っている土から、私たちは造られています。

私たちがイスラエルに旅する時は、現地の人たちはテロに気をつけなさいとは言いません。もちろん気をつけるのですが、それよりも、はるかに大事なのが、「水分補給」です。乾燥していますから、汗をかいていなくても、いつの間にか水分が身体から蒸発して、すぐに脱水症状に陥るからです。そりゃあ、60-70%が水の私たちですから、当たり前です。

私たちは、この身体に水が多分にあることで、いのちがあると感じることができます。聖書には、水こそが、私たちのいのちを示しているものとして表れます。イエスがニコデモにお語りになった時に、「水と御霊によらなければ、神の国に入れない」と言われました。「ヨハ 3:5-6 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」水は肉体のことを示しているのが分かります。水によって生まれることが、どうして肉体の誕生なのか？と思われるかもしれませんが、もうわかるかと思えます。水を多分に含む体から、また、母親の胎内は羊水で満ちています。

3C 陶器師なる神

そして、「形造」られたとあります。ここでの土が水分を多分に含み、粘土のようであったことを考えれば、まさに主は、私たちの陶器師で、私たちが陶器であったことを思い起こしますね。エレミヤ 18 章です。イスラエルに対して、主が語られました。「18:6 「イスラエルの家よ、わたしがこの陶器師のように、あなたがたにすることはできないだろうか——【主】のことば——。見よ。粘土が陶器

¹ <https://andowako.jp/contents/evolutionism/creation-gospel-4/hazah-33.html>

師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたがたはわたしの手の中にある。」私たちは、このように、完全に陶器師の手の中にある、存在です。これを知ることは、とても大切です。自分は、自分が人生の主人公とってしまうからです。いいや、主人公は主です。

しかし、そこには先に見たように、神の恵みがあります。私たちは神の作品です。しかし、私たち自身は、土からできているのです。それを言い表したのが、使徒パウロです。「Ⅱコリ 4:7 私たちは、この宝を土の器の中に入れていますが、それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。」そう、神の恵みの栄光が、土の器で輝くのです。私たちが土から来たからこそ、神こそが栄光をお取りになります。

2B 疲れと渇き

このように、主の恵みと、またいのちが人には表れていますが、逆に、罪を犯していると、それは渇きになります。

1C 隠している罪

ダビデが罪を犯して、それを隠して黙っていた時に、自分の内が干からびていたと詩篇で告白しています。「32:3-4 私が黙っていたとき私の骨は疲れきり私は一日中うめきました。昼も夜も御手が私の上に重くのしかかり骨の髄さえ夏の日照りで乾ききったからです。セラ」霊において、激しい渇きを覚え、それが、肉体にも影響が出ています。

2C 身代わりの主

罪が、神からのいのちを絶つようにされるのですが、ゆえに、私たちの主イエスは、私たちの罪を負われることによって、渇きを経験されました。「詩 22:14-15 水のように私は注ぎ出され骨はみな外れました。心はろうのように私のうちで溶けました。15 私の力は土器のかげらのように乾ききり舌は上あごに貼り付いています。死のちりの上にあなたは私を置かれます。」

そして、主は十字架の上で、「わたしは渇く(ヨハ 19:28)」と言われ、息を引き取られました。さらに、死なれた後、ローマ兵が槍を脇腹に突き刺したのですが、「すると、すぐに血と水が出てきた。(19:34)」とあります。血だけでなく、水が身体から注ぎ出されました。それは、私たちの罪を負われ、それで十字架刑によって極度の脱水症状になり、水が出て行ったのです。

2A いのちの息

そして、「**その鼻にいのちの息を吹き込まれた**」とあります。ここが、他の動物と違うところです。他の動物は、大地のちりで形造られているとありますが、人だけが、ちりで形造られただけでなく、神ご自身のいのちの息が吹き込まれています。

1B 二つのいのち

ヘブル語で、「いのち」は「ハイ」です。BFP での祈り会を、「ハイナイト」と呼びますね。それは、「いのちの夜」という意味です。ここの「いのち」は、複数形「ハイム」となっています。ヘブル語で、最後に「イム」が付くと、複数形になります。ハイの複数形がハイムです。

とても興味深いです。主が、ご自分のいのちを人に吹き込む時に、複数のいのちを入れているのです。これはどういうことか？そうです、肉のいのちと、霊のいのちです。あるいは、今のいのちと、後の世のいのちと言ってもよいでしょう。動物も生き物であります。しかし、この霊のいのちが与えられていません。神は、霊です。ご自分の霊におけるいのちを人に与え、また肉のいのちをくださいました。ソロモンが述べました。「伝 3:11 神はまた、人の心に永遠を与えられた。」人だけが、永遠について思います。世の始まりがどうなっているのか。また終わりは、どうなるのか？死後はどうなるのか？こうやって、永遠の神にしか埋められない思いが与えられています。

2B 神の息

そして、このいのちは、息として神は人に与えられました。この息のヘブル語は、他の箇所でも訳されることばです。「ニシュマト」という言葉ですが、よく一緒に出てくる言葉が「ルアフ」です。こちらも息とか、霊、また風として出てきます。

1C 神のことば

ここで思い出すことはありませんか？神のことばによって、人が生きるということです。「申 8:3 人はパンだけで生きるのではなく、人は【主】の御口から出るすべてのことばで生きる」主のことばは、ご自身の息から出ているので、当然、それはいのちの言葉なのです。この方から出ることばによって、私たちの霊も生きるのです。主イエスは、言われました。「ヨハ 6:63 わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、いのちです。」そして、使徒パウロが、聖書について語った時に、「聖書はすべて神の靈感によるもの」と言いましたね(Ⅱテモ 3:16)。

2C 聖霊

そしてもう一つ、思い出すのは、イエスがよみがえられた後に、弟子たちに息を吹きかけられた時です。「ヨハ 20:22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」」私たちが、神の霊、聖霊が与えられることによって、生きるということがわかります。肉のいのちが与えられるだけでなく、霊のいのちが必要です。

3A 生きるもの

それで最後に、「**それで人は生きるものとなった**」とあります。動物も、生きるものであります。今、見てきたとおり、私たち人は、人として生きる時に、肉のいのちだけでなく、霊のいのちが与えられているものなのだということです。けれども、罪を犯した後は、その霊のいのちが不足している

ので、罪の赦しを受けると、再び霊のいのちが与えられるのだということです。

1B 溷れた骨の二段階のよみがえり

このことを、幻でよくわかるかたちで出てくるのが、エゼキエルの見た幻です。谷に、溷れに溷れた骨が散らばっているところから、風が吹いて、つまり神の霊によって、生きる場所を見ました。エゼキエルが預言をしたら、「おまえたちに息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る。」と言われました。それで預言をしたら、「エゼ 37:7b-38 なんと、ガラガラと音がして、骨と骨とが互いにつながった。8 私が見ていると、なんと、その上に筋がつき、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。しかし、その中に息はなかった。」なんと、人の肉体まで形造られたのですが、息がないのです。それで、主は、「息に預言せよ」と言われます。それで、「37:10 私が命じられたとおりに預言すると、息が彼らの中に入った。そして彼らは生き返り、自分の足で立った。非常に大きな集団であった。」とあるのです。これは、イスラエルの全家だということで、主はエゼキエルに教えました。

このように、イスラエルには二段階の復活があります。一つは、肉体のよみがえりです。もう一つは、霊のよみがえりです。今、イスラエルの国はよみがえりました。紀元 70 年にユダヤ人が世界に散りました。国を失いました。けれども、1948 年に再び建国しました。しかし、だからといって、神を信じているわけではなく、イエスを信じる人はごくわずかです。霊のよみがえりは、将来を待たないといけません。

2B 新しい誕生

同じように、すべての人は二段階のいのちがあるのです。肉体が生きただけでなく、霊が生きていないといけません。ご自身が、いかがですか？ここにいるすべての人が、肉体は生きていますね。けれども、神の霊によるいのちは与えられていますか？人は、ただ肉体だけ生きていても、それで十分ではないのです。神の御霊によって、新しく生まれることによって、初めて人は、生きていけると言えるのです。

そのいのちを得るには、自分の罪が取り除かれなければいけません。罪こそが、人に渴きをもたらします。いのちの水分は、罪がとどまっているところにはなくなっています。どうか、今、生きてください。イエスが身代わりに、罪による渴きを受けてくださったので、この方に信頼してください。

1C 霊と身体の復活

そして人は、霊のいのちを得れば、この肉体が死んでも、再び生きる希望、肉体の復活も約束されています。「ヨハ 11:25-26 イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。26 また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」死んでも行きます。これは肉体の復活です。また、生きていてイエスを信じる者は、永遠に死なないと言われています。これは、

霊のいのちです。イエスを信じる者は、新しく御霊によって生まれます。そして、この肉体が死んでも、新たな体によってよみがえるのです。

2C 生きる選択

主は、イスラエルの民に対して、「生きよ」と言われました。「エゼ 16:6 わたしがあなたのそばを通りかかったとき、あなたが自分の血の中でもがいているのを見て、わたしは血に染まったあなたに「生きよ」と言い、血に染まったあなたに、繰り返して「生きよ」と言った。」これは、一人一人に対しても、言われています。生きよと言われます。

今、ご自分がどんな状況であっても、その中で、霊的に生きる選択ができるのです。モーセが言いました。「申 30:19 私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。」自分はいのちのほうを選ぶことができるのです。この肉体だけでなく、霊的にも生きることができます。動物とは違うのです、私たちは、ただ肉体だけでなく、霊によって生きて、それで初めて、生きていけると言えるのです。

今月のオリブライフ誌に、ハマスのテロリストによって、たった一人残された少女の話が出てきます。²彼女は、両親と弟を殺され、家も何もかも焼かれました。たった一人、残されました。それで彼女は、「テロリストは私からすべてを奪った」と言いました。けれども、それを聞いた防衛隊員のシャハクさんが、こういったのです。「いや、一つだけ奪われなかったものがあるよ。君の未来だ。死んでしまった人たちにはそれ以上の未来はない。でも、君には未来がある。それをしっかり使っていこう。」

私たちは、いろいろな状況を見て、それで失望し、自分もうだめだと思っています。けれども、生きなさいという、神からの呼びかけがあります。自分の前には、いのちと死があります。神は、いのちを選びなさいと言われます。いろんなことを弁解できるでしょう。けれども、必ず、いのちへの道は残されているのです。

² 月間オリブライフ 25年6月号 10頁 BFP Japan 出版